

I 平成23年度の実績概要

平成23年度は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災及びこれに伴う福島原子力発電所の事故の影響が鎌倉のみならず日本全体の観光に色濃く影を落とした一年となりました。日本の各地で様々なイベントなどの観光活動が中止され、国民の旅行活動は自粛ムードが広がり、また、海外からの訪問者は激減するという結果になりました。

当然、これらの影響は鎌倉も無縁ではなく、鎌倉を代表するまつりである「春の鎌倉まつり」や夏の一大イベントである「鎌倉花火大会」など、鎌倉らしい催しが中止されました。日頃は大勢の人が行きかう小町通りも、端から端まで見渡せるほどに観光客数が落ち込むなど、鎌倉の観光活動に大きな影響を与えました。

しかし、こうした震災に係る甚大な影響を受けつつも、観光の振興こそが鎌倉に活力を取り戻す源であるとの意識のもと、震災の復興を祈念するため「流鏝馬神事」が鎌倉市観光協会を中心として実施され、被災地への多額の寄付金が観客より寄せられました。このような取り組みの成果もあり、ゴールデンウィークの頃には、日本の観光地の中では最も早い時期に、にぎわいを取り戻すことができました。

他方、平成23年度は、市としても数々の取り組みを積極的に進めていった一年となりました。これまで必ずしも積極的には進めてこなかったプロモーション活動を推進していくために、アジア最大級の旅行博である「旅博2011」にオール鎌倉の体制で出展を行い、鎌倉の最大の市場である首都圏の消費者に対しPRを行いました。さらに、海外からの観光客の誘致、すなわちインバウンドの振興も進めることとし、神奈川県等との連携のもと、中国の広州で開催された中国国際旅遊産業博覧会（CITE）への出展、大きな市場規模を持つ在日米軍関係者に対するPRのため厚木基地で行われたトラベルフェアへの出展等を行いました。

プロモーションの実施と車の両輪の関係にある地域観光資源の活用にも力を入れました。平成22年度より鎌倉市内の数々の観光資源を発掘し、市民参画によるワークショップを開催しましたが、これらを経て、発掘した観光資源を組み合わせ、いわゆる「着地型観光商品」の開発を行いました。「みんなの鎌倉遠足」と銘打って試みの実施を行いました。参加者の方の満足度は非常に大きなものであったため、新しい鎌倉の観光の方向性を打ち出せたものと考えます。

さらに、情報発信にも力を入れました。鎌倉観光の魅力を語る上で欠かせない「食」をテーマに取り上げた観光シンポジウムを開催することで、市民の理解を増進する取り組みを行うとともに、どこからでも適時の情報発信が行えるツールである「ツイッター」を運用開始するなど、積極的に鎌倉の観光の魅力を発信しました。

このような取り組みのもと、年間を通じては、近隣都市が軒並み20%以上の観光客数の減少を見せている中、鎌倉においては約7%減にとどめるという順調な回復を示し、鎌倉の観光の底力を再認識することとなりました。

また、平成23年度は、観光客に対する安心、安全の提供がこれまで以上に求められる一年でもありました。地震や津波に対する災害対策ばかりではなく、関心が高まった放射能の影響についてもその対応が求められることとなりました。観光分野においても避難誘導マニュアルの作成を行うとともに、防災マップの関係者への周知を行い、加えて海水浴場開設期間中の海水、砂浜の放射能測定を新たに実施し、観光客等への情報提供を行いました。さらに、鎌倉市内の観光関連団体で組織する鎌倉市観光計画推進協議会における個別の検討部会として「災害時観光客対策部会」を設置し、関係者により鎌倉における災害発生時の観光客の対応について検討を行いました。

1 アクションプラン各目標の主な進捗状況

第2期鎌倉市観光基本計画に登載されている鎌倉市及び関係団体等による観光関連事業について、各目標の主な進捗状況は次のとおりです。なお、アクションプラン進捗状況の一覧は「IV アクションプランの進捗状況」に記載しています。

目標1 鎌倉らしさにこだわる観光の実現

今年度は着地型観光商品の造成・販売のトライアル事業や、鎌倉料理コンテストなどが新たに実施され、鎌倉ならではの新しい観光資源の発掘について積極的な取り組みが行われました。

また、前年の鎌倉市観光基本計画進行管理委員会からの提言を受け、情報発信の強化の一環として、市観光商工課において新たにツイッターの運用を開始しました。現在では鎌倉市役所内でフォロワーの件数が最も多くなっており、今後も増加が見込まれています。このほかにも、様々な媒体を通じてタイムリーな情報を、より多くの方に情報提供する取組みを検討しています。



第1回鎌倉料理コンテスト審査の様子

目標2 伝統と快適性の調和した観光空間の実現



「どうする！休日の鎌倉の交通渋滞」の様子

歴史的遺産やまち並み景観を保全するための取組みである世界遺産登録に向けて、ユネスコ世界遺産センターに推薦書を提出するとともに、市民等の理解を深めるための啓発事業の実施やポスター、パンフレットを作成する等、積極的に事業を推進しました。

また、安全で快適なまち歩きの実現に資するため、市内の交通渋滞に関する問題について、市がワークショップを開催し、市民と意見交換の場を持ちました。

加えて、これまでの交通需要マネジメント施策の見直しを含め、鎌倉地域の地区交通計画の検討を行うため「鎌倉市交通計画検討委員会」を設立しました。

さらに、清潔で美しいまちづくりに向けて、ハイキングコースの清掃や公衆トイレの改修などを進めました。

目標3 地域が一体となった観光振興の連携と推進

多様な観光関連主体が一体となって、組織的に観光振興に取り組むために、近隣自治体のみならず、各観光協会、関連団体の参加を得て、鎌倉藤沢観光協議会や富士箱根伊豆国際テーマ地区観光推進協議会など、自治体の枠組みを超えた広域的な観光協力を実施してきました。

また、「鎌倉市観光振興推進本部」を発展的に解消させて、市内の観光関係団体が参画して平成23年度に設立された「鎌倉市観光基本計画推進協議会」については、鎌倉の観光に携わる関係者が適時に情報交換できる場となったことから、地域連携をより深めるものとなりました。



2 平成23年11月の提言を受けた取組み内容

平成22年度実績を評価・検証した結果を踏まえ、平成23年11月に進行管理委員会から提出された「今後に向けての課題・提言」に対する主な取組み内容は、以下のとおりです。

(1) 市民の理解を深める取組みの充実

「住んでよかった、訪れてよかった」の基本理念実現のためには、観光振興の取組みに対する市民の理解と協力が不可欠です。

平成23年11月には、姉妹都市であるフランス・ニース市から日本人シェフを招き、鎌倉の食の魅力をテーマとするシンポジウムを開催し、「食と観光」に対する市民等への理解を深める取り組みを行いました。

また、着地型観光（※1）商品開発等事業の実施に当たっては、鎌倉の隠れた観光資源や魅力を発掘するため、市民参画によるワークショップ等を開催し、市民と共に鎌倉の観光振興について協働しました。

さらに、世界遺産登録については、鎌倉世界遺産登録推進協議会との各種啓発事業の実施、神奈川県教育委員会との共催による文化財保護ポスター作成事業の実施、啓発用パンフレットの配布等を実施し、世界遺産登録への市民の理解を深めました。

※1 旅行者の居住地、つまり発地で商品を開発・販売する従来型の観光に対して、旅行の目的地、つまり着地の側で、その土地ならではの特色を生かして開発・販売する観光のこと。

	<p>「食と観光」シンポジウム</p> <p>フランスのニース市より日仏両国でミシュランの星を持つ松嶋啓介シェフを招き、「鎌倉の食の魅力を探る」と題してシンポジウムを開催しました。市長との対談や鎌倉の地場の野菜を活用しての調理のデモンストレーションを行い、最後には、調理されたコース料理を参加者に堪能していただき、観光の重要な要素の1つである「食」について考えを深めました。</p>
-------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(2) 各種統計データの充実

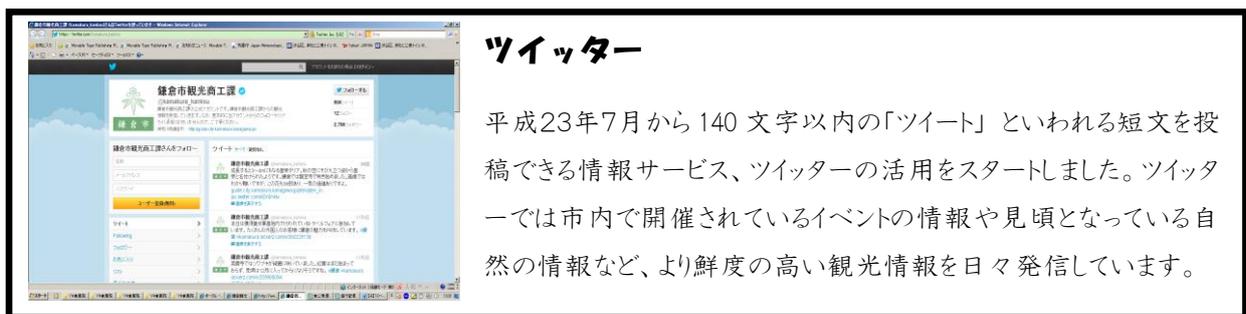
従来から実施している入込観光客数調査及び観光消費額調査のほかに、鎌倉市の観光振興が市内の観光産業にどのような経済効果をもたらしているかを検証するため、観光産業に関する経済波及効果について試みの調査を行いました。また、平成23年11月には、観光庁による「観光地域経済調査（※2）（予備調査）」が実施され、今後、

予備調査の集計結果が示されるとともに、24年度には「観光地域経済調査」が本格実施されることとなっています。

※2 観光が地域の経済や産業にどのような影響を及ぼしているのかということ把握するための調査。調査によって、地域における観光によりもたらされるお金の流れがわかるようになる。

(3) 情報共有と情報発信の強化

旬な観光情報を発信するため、観光商工課ホームページの「撮れたて！鎌倉（画像）」や「かまくら最新ニュース（文字）」の更新をほぼ毎日実施しました。また、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の普及など情報発信の方法が多様化していることから、新たな取り組みとして、平成23年7月からツイッターを活用した情報発信を開始しました。今後もFacebookなど様々な手段による情報の共有や発信について検討していきます。



(4) 観光を横串とした地域連携の体制づくり

鎌倉市内の観光関連団体から成る「鎌倉市観光基本計画推進協議会」(※3)の開催のほかに、その構成の団体と個別に協議の場を持つなど、地域連携の体制強化に努めました。

また、平成22年度に引き続き、様々な業種や業界の人材や団体のネットワークを形成するため、観光資源の保存や活用に興味のある市民等を集めたワークショップを開催し、地域の観光資源の活用などについて意見交換を行いました。

※3 これまでの鎌倉市観光振興推進本部を発展的解消させて、平成23年度より、実務レベルで機動的な意見・情報交換の場として設置された協議会。

(5) 優先順位と横断的な取り組み

財政状況が厳しい中、取り組まなければならない事業を優先的に実施するため、事

業の必要性を検討するとともに、ホームページや案内図への広告掲載など、財源の確保に取り組みました。

また、近隣自治体で構成する湘南地区観光振興協議会や富士箱根伊豆国際観光テーマ地区神奈川県協議会などと連携し、国内外のイベントやキャンペーンに参加することで、鎌倉の魅力をPRすることができました。

さらに、外国人観光客を誘致するための課題を解決するため、観光庁が実施する「訪日外国人受入環境整備事業」(※4)を誘致することとし、平成24年度に当該事業を実施することとしました。

※4 訪日外国人旅行者が安心して、快適に、移動・滞在・観光することができるような環境の整備を目的として実施。外国人旅行者の満足度を高め、リピーターの増加を図るもの。

(6) 鎌倉における新しいツーリズムの実行

平成22年度から開始した「着地型観光商品開発等事業」においては、平成23年度には地域観光資源を活用した商品開発や販売について試みの取り組みを行ったことで一定の方向性を示すことができました。本事業を2か年の事業で終わらせず、鎌倉における着地型観光の定着に向け課題を一つ一つ解決し、継続的に事業を展開していくことが望まれることから、民間の事業者に対する事業実施を打診しました。

また、神奈川県と県内で観光系の学部を有する4大学(松蔭大学、東海大学、文教大学、横浜商科大学)が組織するかながわ観光大学推進協議会とともに、「かながわ移動観光大学」を鎌倉において開催し、学生による事例研究発表などを通じ、参加者と「鎌倉市における着地型観光のあり方」について考えました。



着地型観光商品開発事業

観光客にまだあまり知られていない地域や、閑散期、閑散時間などにおける誘客を図るため、調査して収集した観光資源をもとに、市民参加によるワークショップの開催を通じ着地型観光商品を開発し、「みんなの鎌倉遠足」と銘打ってトライアルツアーを実施しました。

(7) プロモーションの実施

これまで、鎌倉市においては、誘客のためのプロモーション活動を積極的には行っていませんでしたが、東日本大震災の影響から減少した観光客数の回復を図るため、首都圏向けの旅行博として大きな効果が見込まれる「旅博2011」に出展しました。このキャンペーンでは世界遺産登録に向けての啓発や座禅体験などにより、「鎌倉らし

さ」「鎌倉ならではの魅力」を十分にPRすることができました。



旅博2011
アジア最大級の旅行博である「旅博2011」(日本旅行業協会主催)に鎌倉市観光協会、鎌倉商工会議所、鎌倉世界遺産登録推進協議会とともに出展しました。鎌倉ブースでは、座禅体験や流鏑馬衣装のお披露目を行い、ステージでは「静の舞」の上演などが行われました。

(8) 外国人観光客の誘致

平成23年9月に、中国の広州で開催された「中国国際旅遊産業博覧会(CITE)」に富士箱根伊豆国際観光テーマ地区神奈川県協議会の一員として参加しました。観光パンフレットの配布や鎌倉の魅力の紹介、旅行商品造成に向けた商談等を行い、外国人客の誘客に努めました。

また、平成24年3月に米軍厚木基地で開催されたトラベルフェアに、鎌倉市観光協会と協力し出展しました。米軍基地でのこうしたイベントは、軍関係者やその家族などに鎌倉をPRする機会となることから、今後も有効な外国人観光客の誘客の手段と考えられます。



中国国際旅遊産業博覧会(CITE)
中国の広州で年に一度開催される中国最大規模の旅行博「中国国際旅遊産業博覧会」(China (Guangdong) International Tourism Industry Expo)に富士箱根伊豆国際観光テーマ地区神奈川県協議会の一員として参加し、訪日外国人の観光客誘致を行いました。

(9) 市と観光協会との協働

平成23年9月30日から開催された「旅博2011」では、鎌倉市観光協会、鎌倉商工会議所、鎌倉世界遺産登録推進協議会と共同で出展しました。このイベントでは、座禅体験や静の舞の上演、流鏑馬装束でのお出迎えなど、様々な団体の協力をいただきながら、鎌倉らしさをPRすることができました。今後も、地域一丸となった観光振興を行うため、各主体と連携して取り組んでいくことが重要であると考えます。